

上関
未来通信No.36
通算350号

発行 令和3年6月28日

上関町 副町長
橋本 政和 氏

プロフィール

昭和36年生まれ
昭和54年／上関町役場
へ入庁（総務課長補佐、
総合企画課長を歴任）
令和3年4月1日／副町
長に就任

っておられました
が、綿密に計算され
ていたんですね。

橋本／議会でも、
何度も勉強会を開
き、先進地での研
修も行いました。

原子力の計画が止まっている状況で、
自主財源の確保という意味でも効果
的な選択だと考えました。

新
たな観光拠点に

古泉／町にとって風力発電施設の立地
は、観光面でのような効果がありま
したか。また今後の展開や課題などが
あればお話しください。

橋本／風力発電は①「売電収入によ
る自主財源の確保」②「道路整備」③
「観光開発」という「一石三鳥」を狙
った事業です。①と②は施設の建設・
稼働で達成しています。現在は③の
観光開発を進めている段階です。

発電所の近く（上盛山）に花木公
園をつくる計画があります。令和3
年から新たに「花咲く海のまち推進
事業」として進める予定です。城山
歴史公園の河津桜と併せて、町の観
光スポットにしたい。そして、これ
らを新たな産業の創出と雇用に結び
つける取り組みを行っていきます。

古泉／とても景色がいいところなの
で、観光に活かさないともったいない
ですよ。

橋本／道の駅や温泉を整備したこと
で、上関大橋の手前までは観光客が
訪れてくれています。中には「上盛
山展望台まで行きたい」という声も
あり、河津桜の時期だけではなく年
間を通じて観光拠点を整備したいと
考えています。

今
後も積極的なチャレンジを

古泉／上関町は少子高齢化や人口減
少、基幹産業の衰退といった課題を抱
えています。本年4月に就任した新
副町長として、今後どのようなまちづ
くりを考えておられますか。

橋本／自主財源の確保という一番の
目的は目処が立ちました。肝心なのは
その利益を住民にどう還元していく
かです。町財政は決して安泰ではあり
ません。その危機感から始めたチャレ
ンジですから、これからも町長を補佐
しながら積極的に取り組んでいかな
ければならないと思っています。

また、今年の夏に示される国の「エ
ネルギー基本計画」も注意深く見守る
必要があります。町の最重要課題であ
る原子力発電所計画が国策の中でど
う位置づけされるかは、上関町にとっ
て重要な問題ですから。

古泉／今はまだ不透明な部分が多い
のですが、町連協としては「原子力発
電所誘致による豊かなまちづくり」が
最終目標なので、町とも協力し合っ
て進めていければと思います。これか
らもお力添えをお願いします。
本日はありがとうございました。

※撮影時のみ、十分な距離を保った上でマスクを外しています。

橋本副町長に聞く

風力発電の効果と上関の未来



古泉／発電開始から2年
が経過しました。町のホ
ームページには年間の発
電実績が公表されていま
すが、これについてどう
評価されていますか。

橋本／初年度は試運転や
機器の調整等で当初の想
定を下回りました。しかし2年目は調
整も終わり風況も良かったため、安定
した発電実績を残せました。大切な
のは故障なく回り続けることなので、今
後もメンテナンスをしつかりやって
いきたいと思っています。

古泉／上関町の今年度予算案では、
風力事業による収益が特別会計から
定を下回りました。しかし2年目は調
整も終わり風況も良かったため、安定
した発電実績を残せました。大切な
のは故障なく回り続けることなので、今
後もメンテナンスをしつかりやって
いきたいと思っています。

古泉／副町長は計画の初期から携わ
る自主財源の確保は①「売電収入によ
る自主財源の確保」②「道路整備」③
「観光開発」という「一石三鳥」を狙
った事業です。①と②は施設の建設・
稼働で達成しています。現在は③の
観光開発を進めている段階です。

古泉／上関町は少子高齢化や人口減
少、基幹産業の衰退といった課題を抱
えています。本年4月に就任した新
副町長として、今後どのようなまちづ
くりを考えておられますか。

※撮影時のみ、十分な距離を保った上でマスクを外しています。

※1・1年目／7,772,326kWh 2年目／9,072,272kWh

※2・一般家庭や事業者が再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が
一定価格で一定期間買い取ることを国が約束する制度（Feed-in Tariff）

青壮協

参加レポート

「第54回原産年次大会」が4月13日・14日の両日、東京国際フォーラムで開催され、その様子がオンライン配信されました。上関町青壮年連絡協議会（以下「青壮協」）のメンバーも視聴しました。後日、原産年次大会の講演の中でも特に上関町に関係の深い「脱炭素のための原子力発電の重要性」や「日本のエネルギービジョン」などについて、青壮協の三役会で議論を行いました。ここでは、原産年次大会やパネルディスカッションの内容と、三役会での意見交換の内容を要約して紹介します。（要旨・文責編集部）

三役会 意見交換

●脱炭素に向け、原子力の有効利用を

長坂康正経産副大臣／グリーン成長戦略でも確立した脱炭素技術である原子力について、安全性向上を図り、引き続き最大限活用する。政府方針として、安全最優先での再稼働を進めるとともに、安全性に優れた次世代炉の開発を行っていく。

ミッシェル・ベルテルミ／信頼できる再エネ電源は、面積等を考えると日本では無理。脱炭素だけでなく、経済性等を含めると原子力は必要である。

サマ・ビルバオ・イ・レオン／今年1月の大雪で日本の電力供給が逼迫した際、太陽光も風力も頼みにならなかった。最終的に原子力が必要だったというのを国民に理解してもらわねばならない。

ティモシー・ストーン／脱炭素への取り組みを50年・100年続けるためには原子力しかない。真の基幹電源として信頼できるのは原子力だということに訴えるべき。

キャロル・ベリガン／若い人たちがエネルギーについて自分の考えを持つてもらえることが大事。日本でも学生などに対するエネルギー教育を進めてほしい。

●原子力の新增設は必須

小宮山涼一／脱炭素社会を実現するため、原子力発電設備の新增設・リプレースを2050年までに2600万kWに拡大することで、経済的にも合理的な選択肢となる。

遠藤典子／昨年から今年にかけての需給の逼迫は、原子力が稼働していないことに尽きる。こうした現状を目にすれば、原子力の新增設が必要になると考えるほかない。

市川眞一／島国、小資源国の日本で原子力をどう位置付けるか、政府はエネルギー基本計画の中でしっかりと明記していただきたい。

原子力の重要性をもっと知ってほしい

古泉／大会を通じて中心的なテーマであった原子力は、上関町にとっても重要だと思っています。まず、大会の講演や議論を聞いて率直な感想をお願いします。

青壮協／海外の人は自信をもって発言していますね。日本人は控えめです。日本は技術があるのだから、原子力についても「新增設・リプレースによりもっと安全なものをつくります!!」と明言してほしい。

青壮協／日本の原子力技術は年々進歩しており、安全性も高まっているのに、そういった話はあまり聞かないですね。

古泉／原子力発電所の新規制基準は世界一厳しいと言われていますから、もっと自信を持つてほしいですね。

さて大会の中で「再エネ推進派はそれ以外は認めない、といった発言をする」とありましたが、それについてはどう感じていますか？

青壮協／安定性や蓄電の問題を抱えています。再エネ推進派は「今の時代だからすぐにいいものができる」と楽観的です。それができないから原子力が必要なんです。

青壮協／再エネ推進派は再エネの良いところだけしか言いません。逆は絶対に言わない。再エネにもデメリットがあることを言うべきでしょう。今、温暖化対策で電気自動車を推進していますが、その電気をどうやってつくるのか。石炭火力でつくったのでは本末転倒です。

青壮協／マスコミも同じですよ。再エネだけに頼ったら電気料金が大変なことになるんですよ。そんな



会長 藤井快宏 副会長 守友誠 副会長 柏田真一 事務局 松原聖
事務局 田中健太 司会進行／町協事務局 古泉直紀

また推進団体も一緒に理解活動をしていかなければいけないと思います。

古泉／菅総理が言われている「カーボンニュートラル」実現のためにも、原子力に対する理解活動は継続しなくてはならないと思います。

青壮協／「カーボンニュートラル」の意味はなかなかわかりにくいですが、興味ないのかもしれない。再エネとか電気自動車とか言いますが、その背景に必要なものがあるということを知ってほしいですね。難しいかもしれませんが、それを若い世代を含めて周知することが大切だと思います。

古泉／皆さんには、これからも青壮協としての活動を積極的に行ってほしいと思います。ありがとうございます。

●今回、橋本新副町長とお話させていただき、原子力発電所の建設が進まない中でも、自主財源の確保をはじめ観光地の整備など、町の活性化に向けた取り組みをされていることがよくわかりました。●また、原産年次大会では、脱炭素化に向け原子力に対する期待の高まりを再認識するとともに、原子力建設を契機としたまちづくりを目指す我々が、今何をしていくべきか、青壮協メンバーとも共有することができました。

●先のG7サミットでも気候変動対策が主要議題になるなど、脱炭素社会の実現のためには上関地点も原子力建設が自ずと必要になってくると思います。●上関町と青壮協がお互いを補完しながら、町内が一つになって、活力のある豊かな上関町を目指し、今後活動していかなければならないと再認識しました。（K）

後記